

# メキシコの豚肉生産の現状と課題



ALICセミナー 2016年8月26日  
(独) 農畜産業振興機構  
調査情報部 渡邊陽介  
<http://www.alic.go.jp/>

## セミナーの構成

- ◆ 世界及び日本におけるメキシコ産豚肉
- ◆ メキシコの豚肉産業の概要
- ◆ まとめ

## 参考（資料中の略称など）

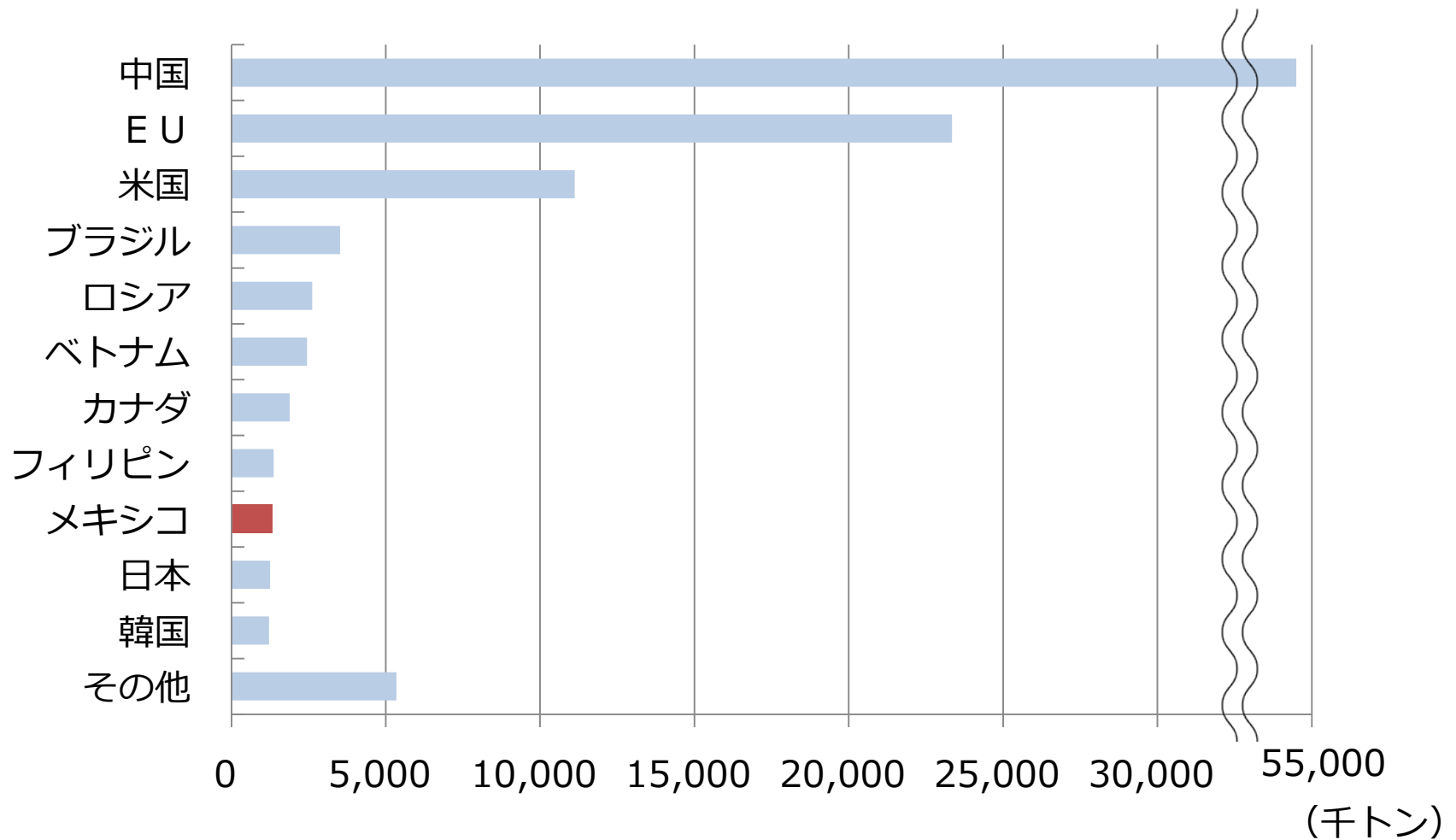
- USDA：米国農務省
- SAGARPA：メキシコ農牧農村開発漁業食料省
- SIAP：農牧漁業情報局 – SAGARPA傘下
- INEGI：メキシコ国家統計地理情報局
- MPEA：メキシカンポーク輸出業者協会
- GTA：「Global Trade Atlas」
- 穀物年度（9月～翌8月）

- ◇ この資料は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。
- ◇ この資料の正確性の確認等は、各個人の判断でお願いします。
- ◇ 提供した情報の利用に関して、万一、不利益を被る事態が生じたとしても、ALICは一切の責任を負いません。

# 世界及び日本におけるメキシコ産豚肉

# 世界：豚肉生産量（2015年）

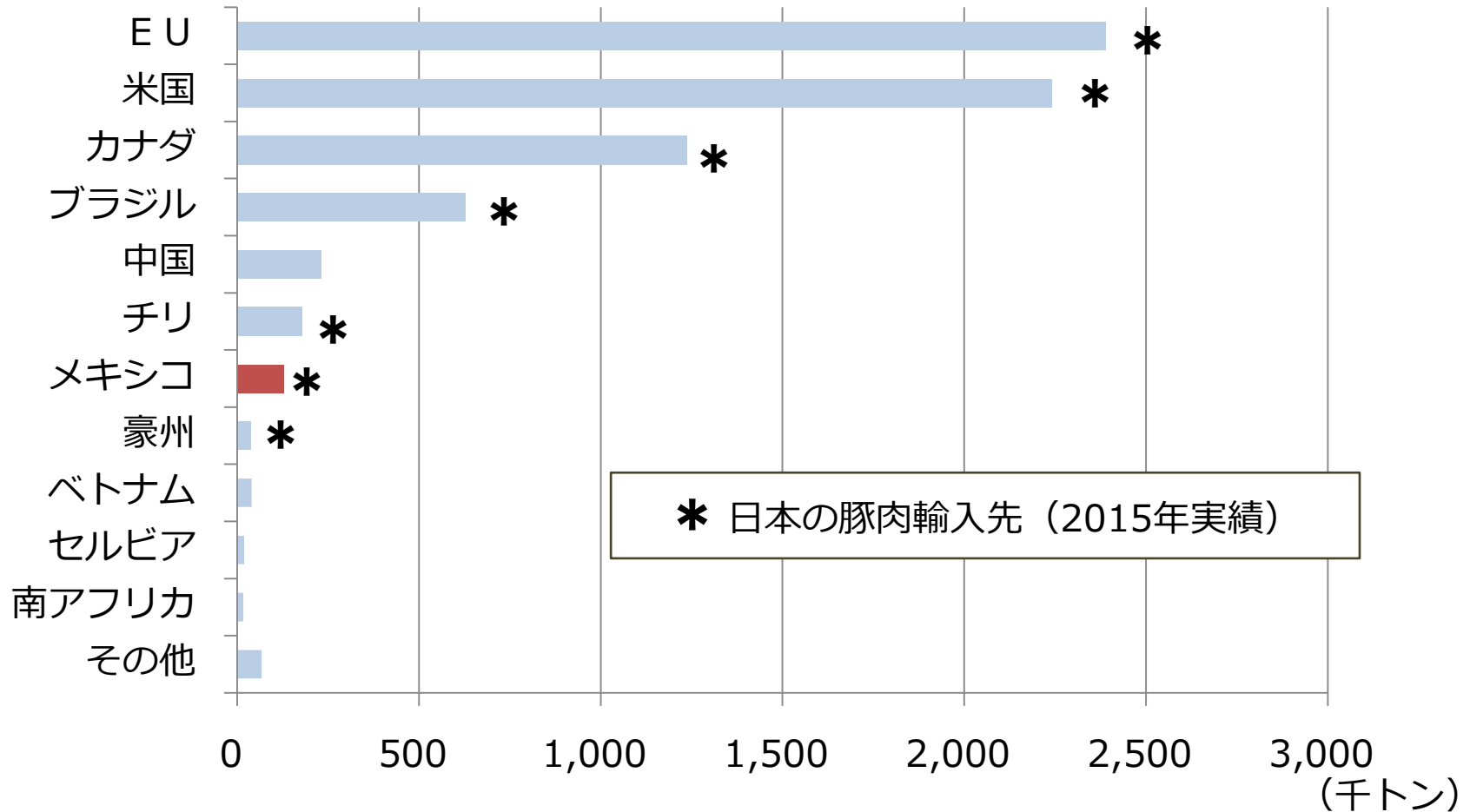
◆ 豚肉生産量は、日本とほぼ同じ（132万トン）



資料：USDA  
注：枝肉重量ベース

# 世界：豚肉輸出量（2015年）

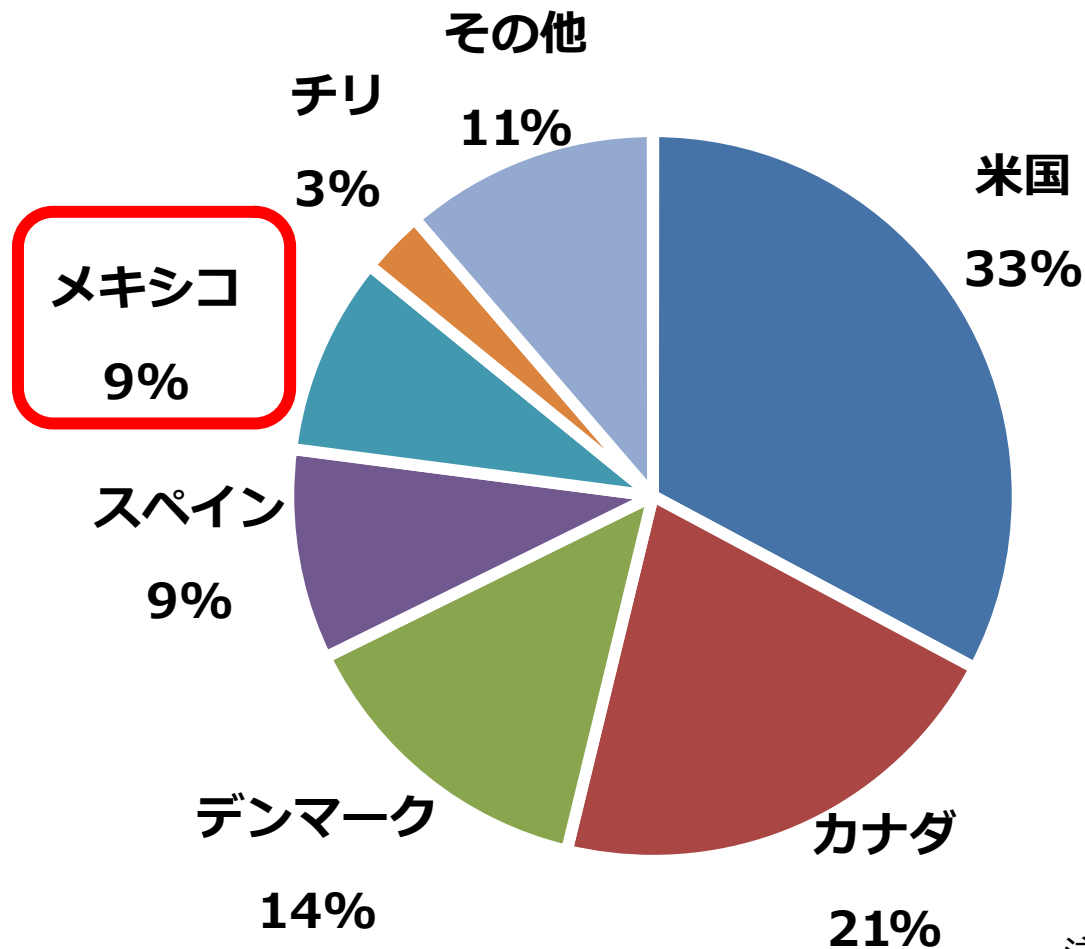
## ◆ 豚肉輸出量は、世界でも上位に入る（13万トン）



資料：USDA

# 日本：国別豚肉輸入割合（2015年）

- ◆ 米国、カナダ、デンマークに次ぐ、豚肉輸入先国

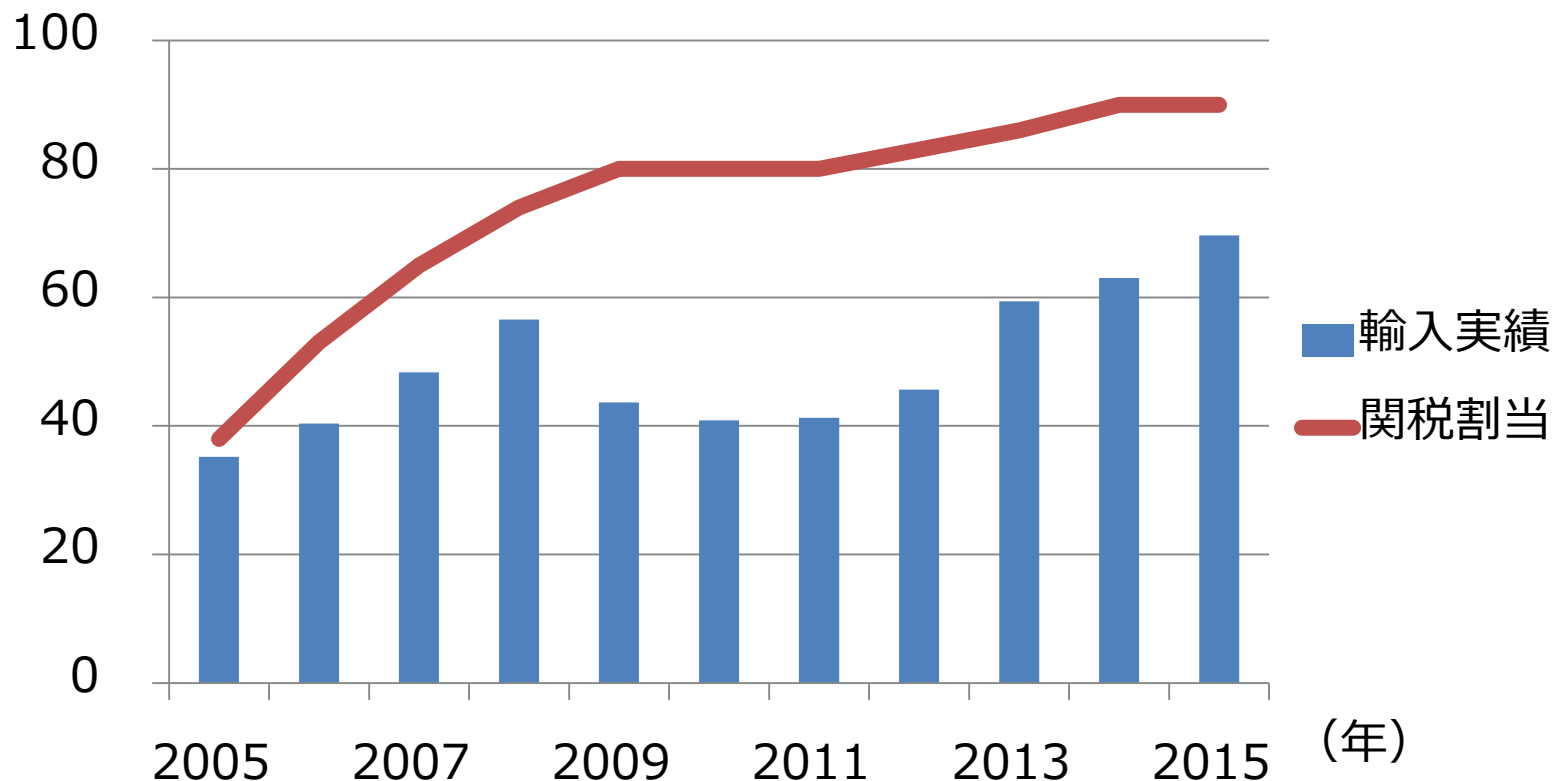


資料：GTA  
注：HSコード0203

# 日本：メキシコとの経済連携協定（EPA）

- ◆ 2005年（H17）4月1日に発効
- ◆ 2015年の豚肉の関税割当は9万トン（2016年も同じ）
- ◆ 枠内税率は、従価税部分が2.2%

(千トン)



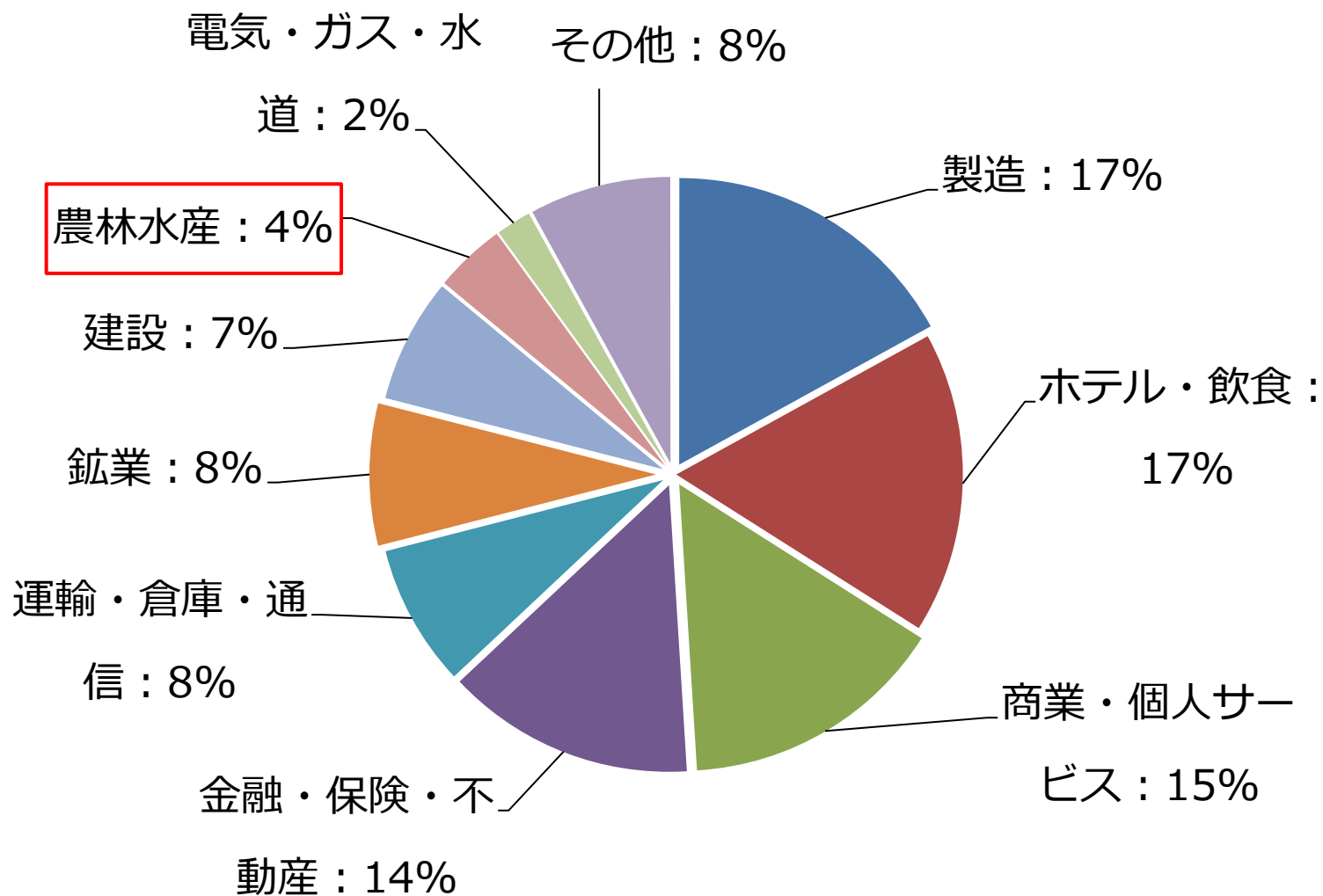
資料：財務省「貿易統計」、農水省



# メキシコの豚肉産業の概要



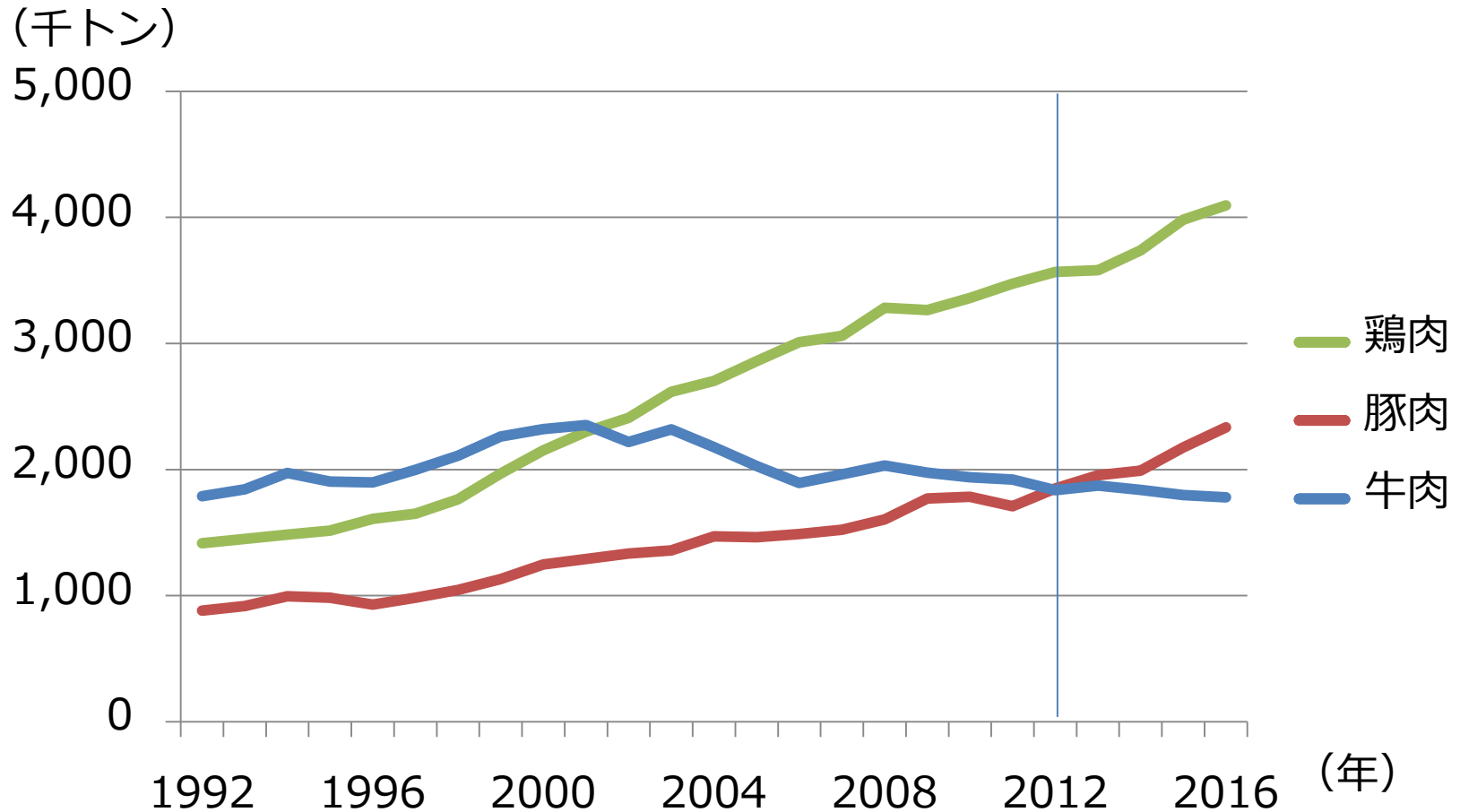
# GDPの産業別構成割合（2013年）



資料：メキシコ政府データを基にALIC作成

# 食肉消費の推移

◆ 豚肉の消費量は、2012年以降、牛肉を上回る



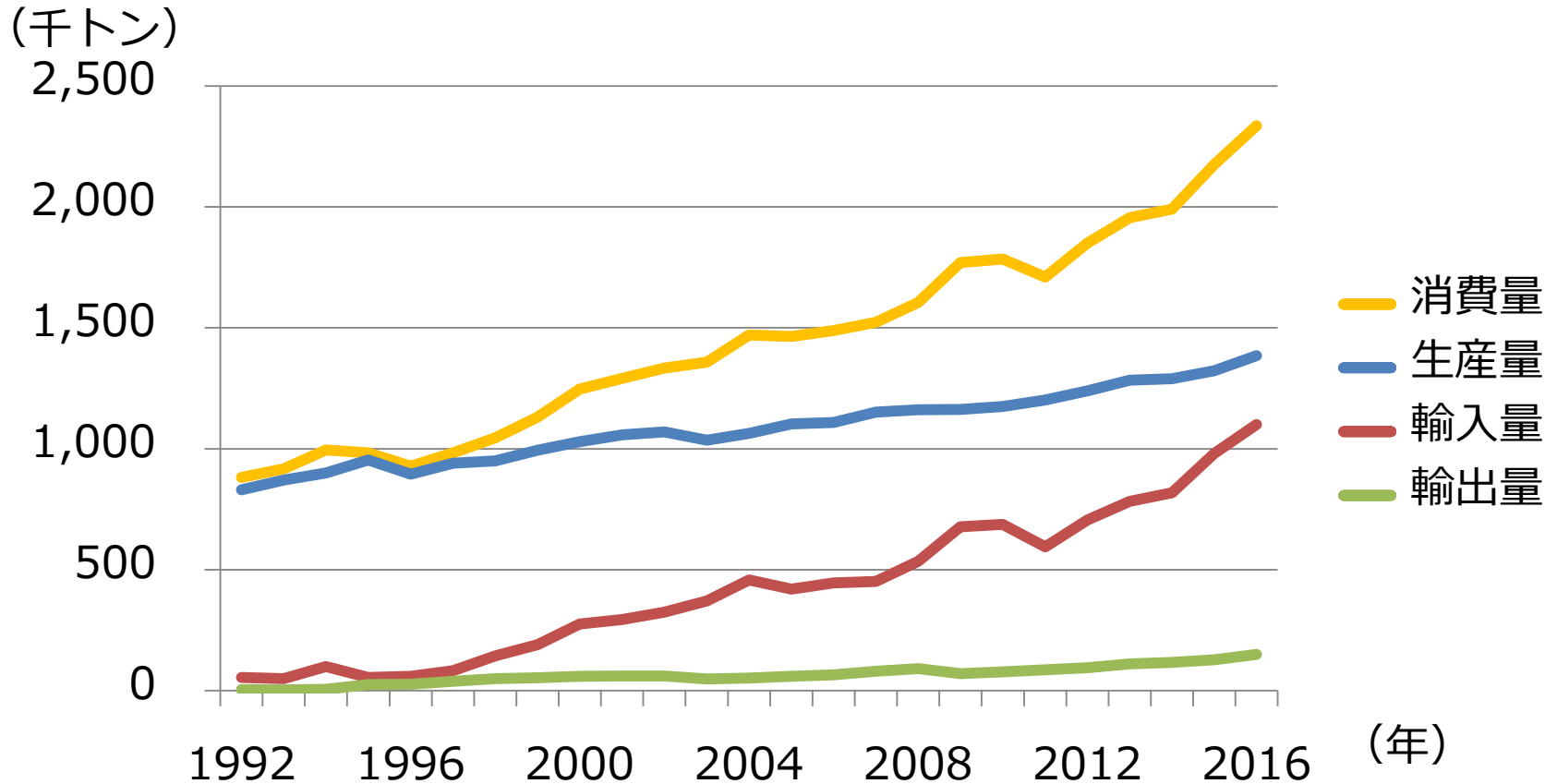
資料：USDA

注1：枝肉重量ベース

注2：2016年は予測値

# 豚肉需給の推移

- ◆ 豚肉生産量は、飼養頭数の増加、生産性向上により増加
- ◆ 増加する国内消費を輸入量の増加で補っている



資料：USDA

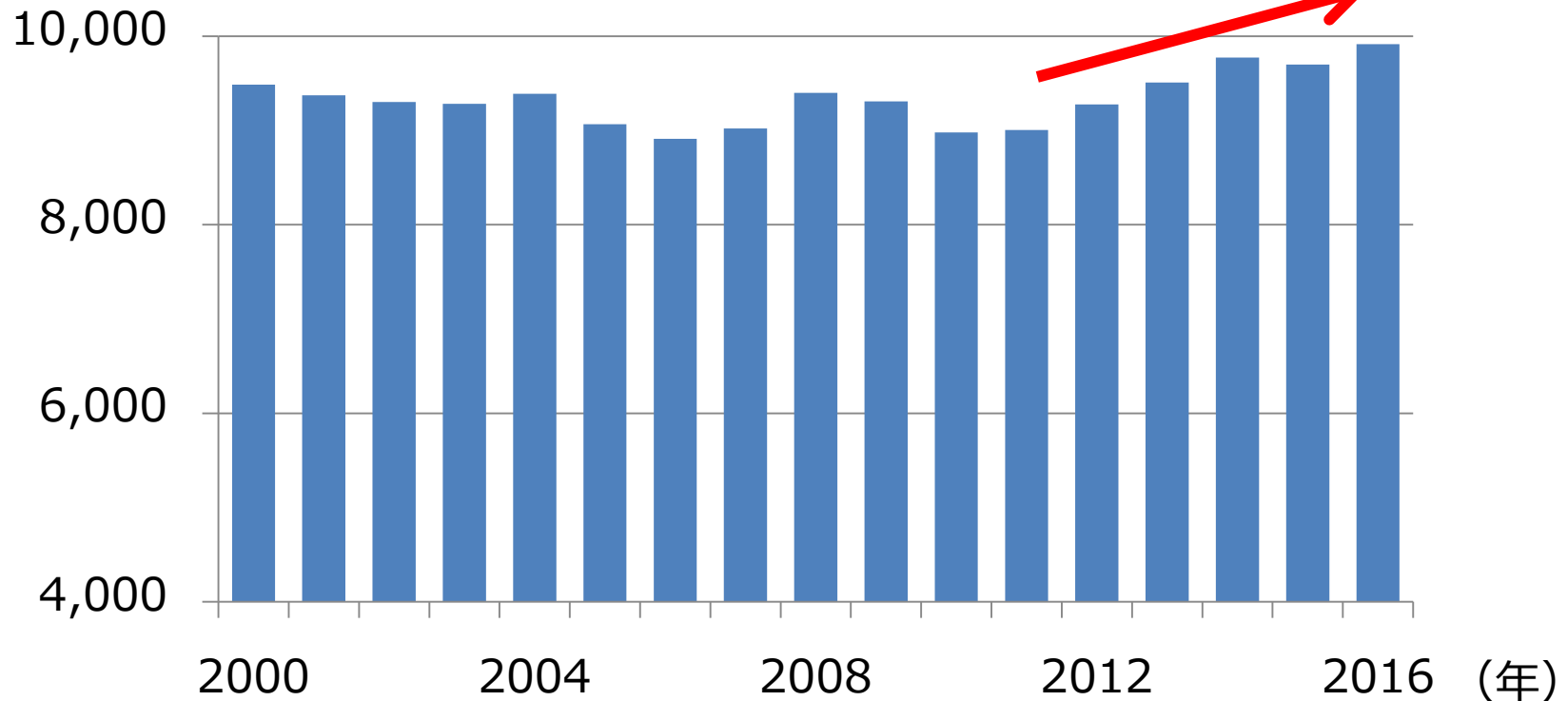
注1：枝肉重量ベース

注2：2016年は予測値

# 豚飼養頭数の推移

- ◆ 豚流行性下痢（PED）の影響を受けた2015年を除き、近年、増加傾向で推移
- ◆ 2016年は、991万7000頭と過去最高の見込み

(千頭)

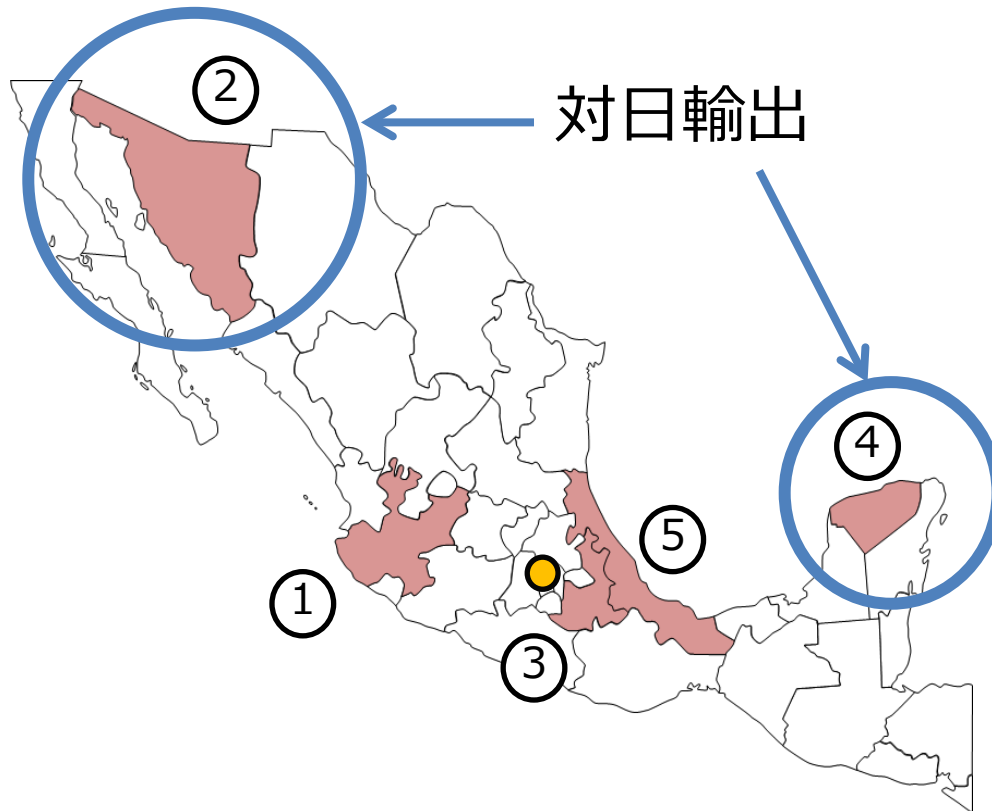


資料：USDA

注：2016年は予測値

# 主要豚肉生産地域（2015年）

- ◆ ハリスコ州、ソノラ州が2大生産地域
- ◆ ソノラ州、ユカタン州が、2大対日輸出向け生産地域



● は、メキシコシティ（首都）

① ハリスコ州：26万8000トン

② ソノラ州：22万9000トン

③ プエブラ州：16万2000トン

④ ユカタン州：12万3000トン

⑤ ベラクルス州：11万9000トン

メキシコ計：132万3000トン

資料：SIAP

# 規模拡大の進展

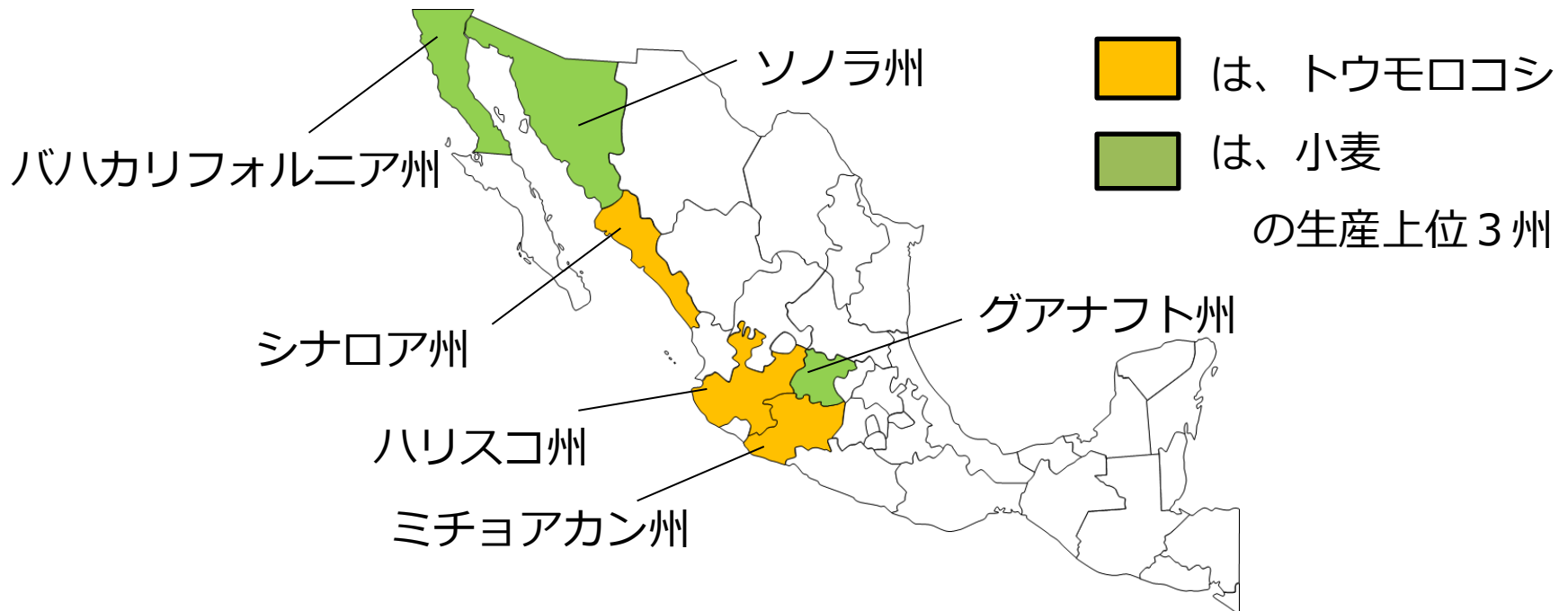
- ◆ 小規模農家の廃業、大規模農家の規模拡大、  
企業養豚による垂直統合（インテグレーション）の進展  
⇒ 1戸当たり頭数は、増加傾向で推移
- ◆ ソノラ州での1戸当たり頭数の増加が著しい

州	1戸当たり頭数 (頭/戸)		
	1991年	2007年	増減比
ソノラ州	170.0	1117.5	557.4%
ハリスコ州	26.7	78.7	194.8%
ユカタン州	7.5	13.7	82.6%
全国	6.6	11.4	72.7%

資料：INEGI

# 飼料の状況

- ◆ 飼料原料は、トウモロコシなどが中心
- ◆ 飼料トウモロコシの約7割を輸入、うち98%が米国産
- ◆ 米国の飼料穀物価格の影響を受けやすい
- ◆ 輸送費がかさむため、米国産に対してコスト面で不利
- ◆ ソノラ州では、生産が盛んな小麦を飼料に利用





# T I F 認証施設

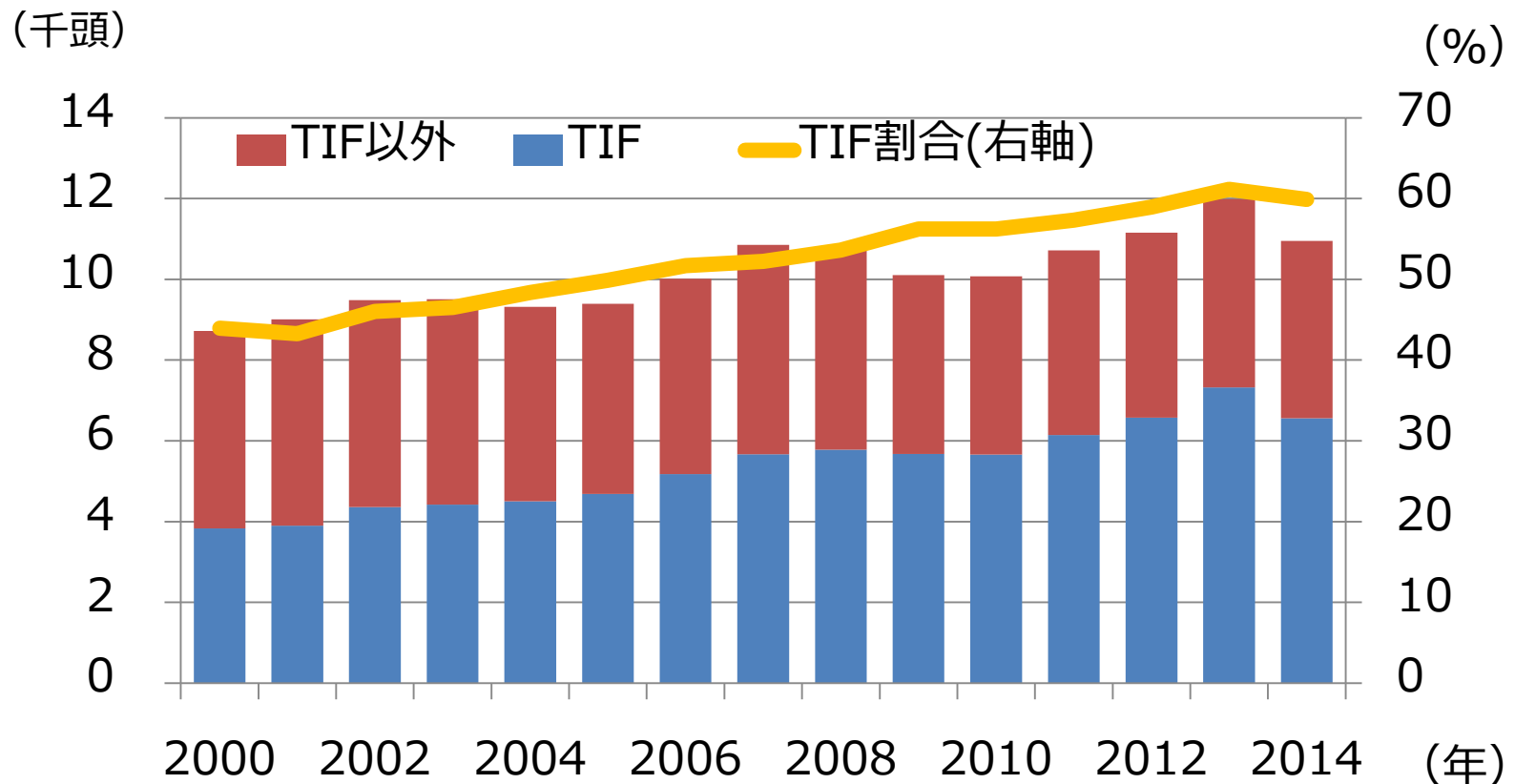
- ◆ 食肉製造過程で安全・衛生基準を満たしていることを保証  
【査察・検査項目】  
施設、作業機械、原材料の出所、生産及び食肉処理の工程、H A C C P など
- ◆ 食肉製品の輸出は、TIF施設からのみ
- ◆ TIF認証施設は439カ所、うち豚肉の施設は320カ所  
(2016年1月時点)



TIF認証施設で処理された製品には、  
マークが付される

# T I F 認証施設でのと畜

- ◆ TIF認証施設でのと畜割合が増加傾向。6割を占める
- ◆ TIF認証施設で処理された豚肉への国内需要の高まり



# 国内市場

- ◆ うで肉、もも肉、内臓や皮などは、国内で消費
- ◆ 公設市場では常温での販売も行われている

①



②



③

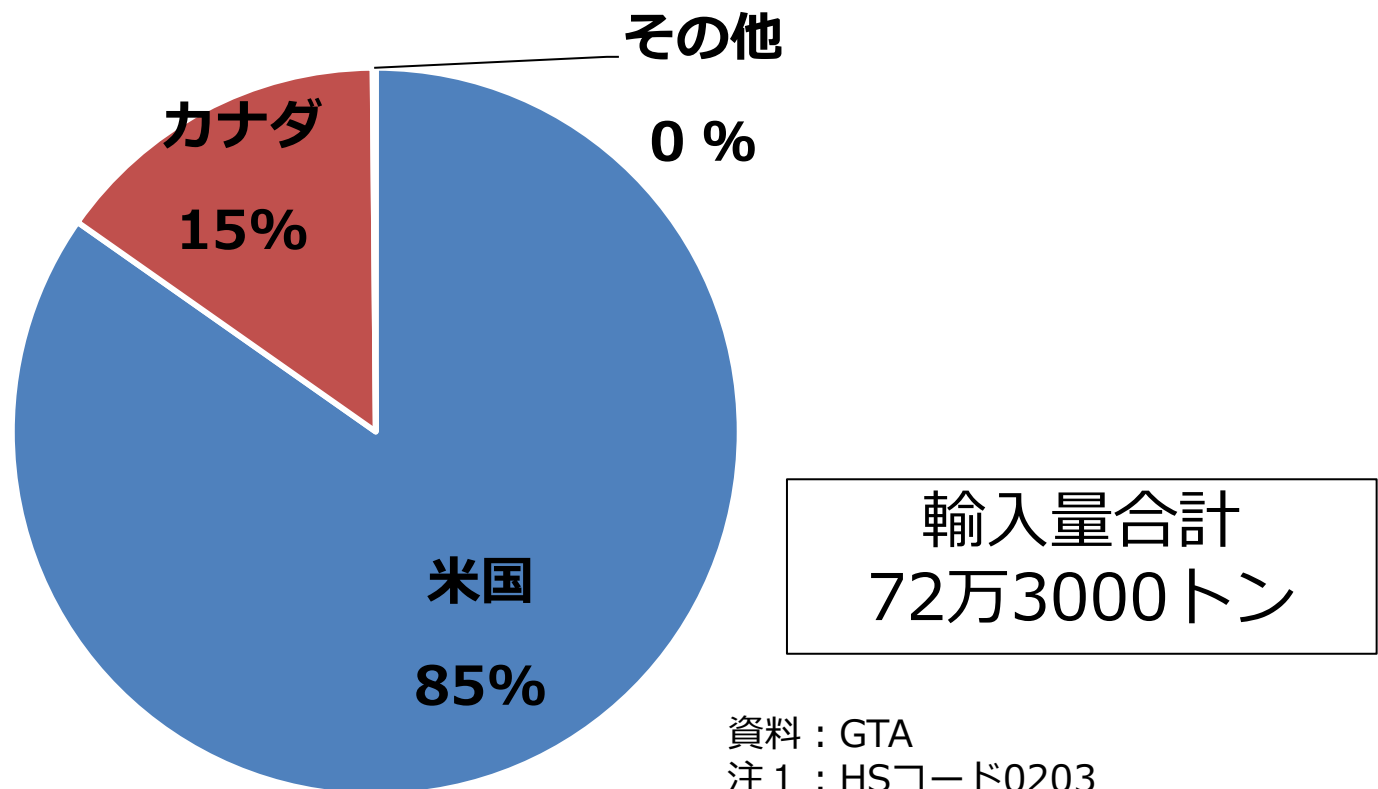


④



# 国別豚肉輸入量（2015年）

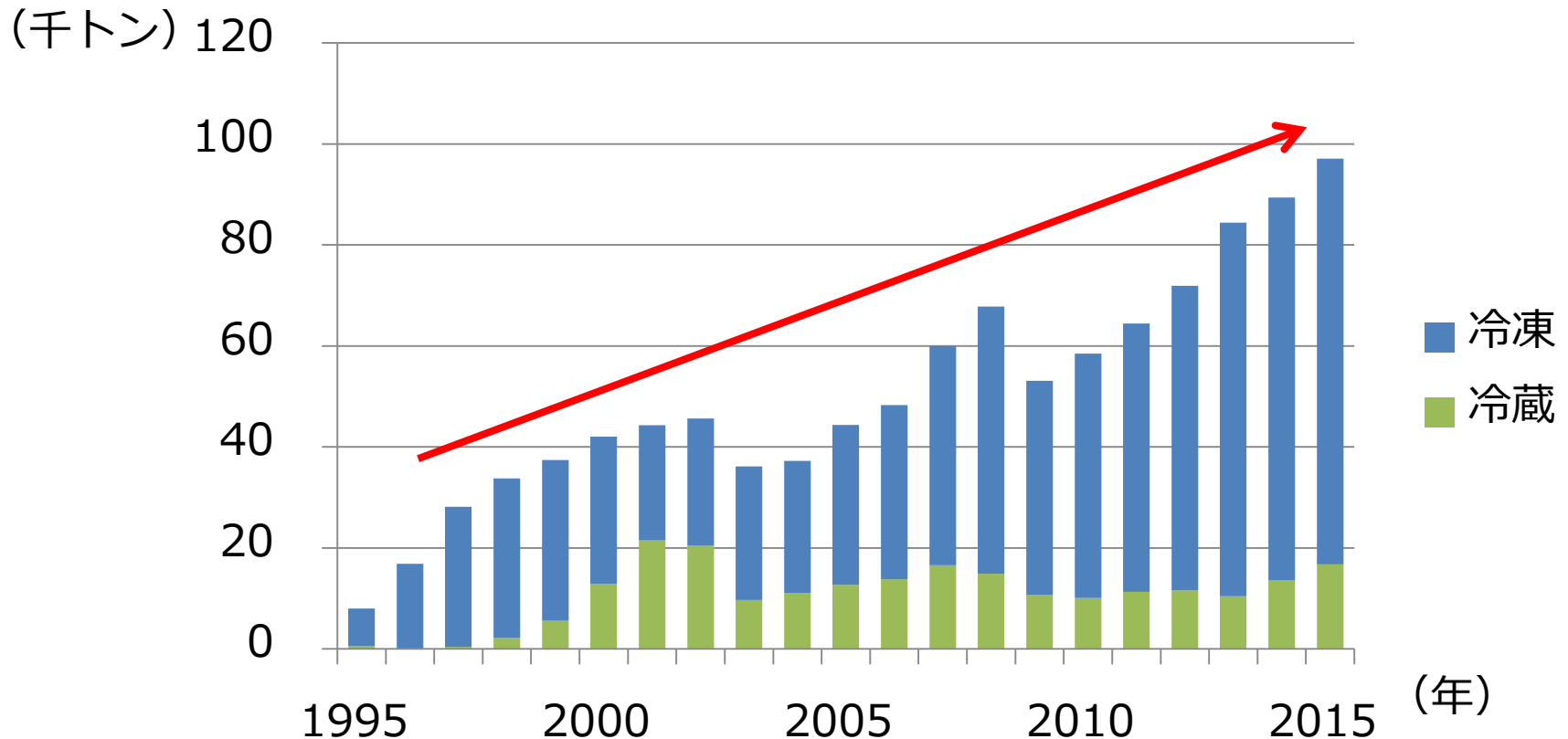
- ◆ 地理的要因、NAFTAによる関税の免除などにより、米国から多くの豚肉を輸入
- ◆ 特に、低価格部位（うで、もも等）を輸入



資料：GTA  
注1：HSコード0203  
2：製品重量ベース

# 豚肉輸出量の推移

- ◆ 国内で消費されないロースやヒレ、バラなどを輸出
- ◆ 輸出の8割を冷凍品が占める
- ◆ 冷蔵、冷凍ともに増加傾向で推移

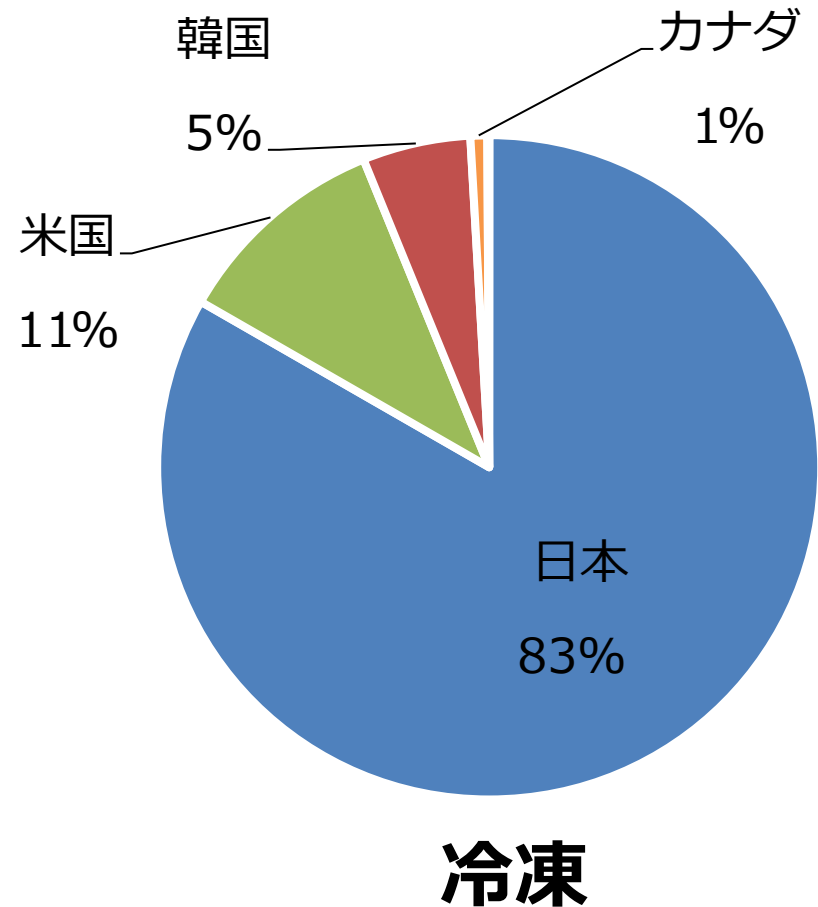
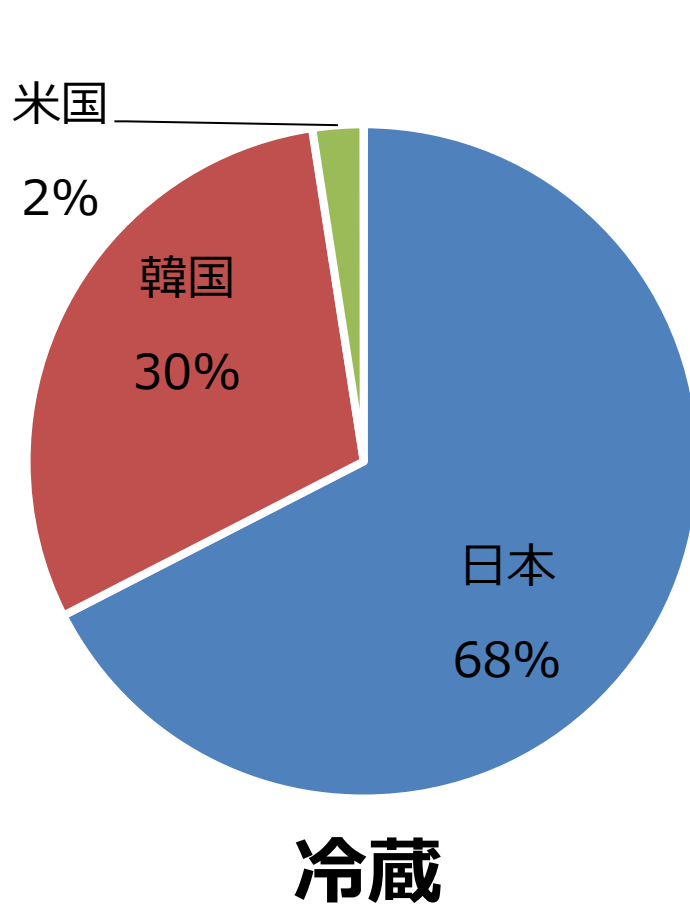


資料：GTA

注：HSコード0203

# 国別輸出割合（2015年）

## ◆ 冷蔵、冷凍ともに、日本が最大のマーケット

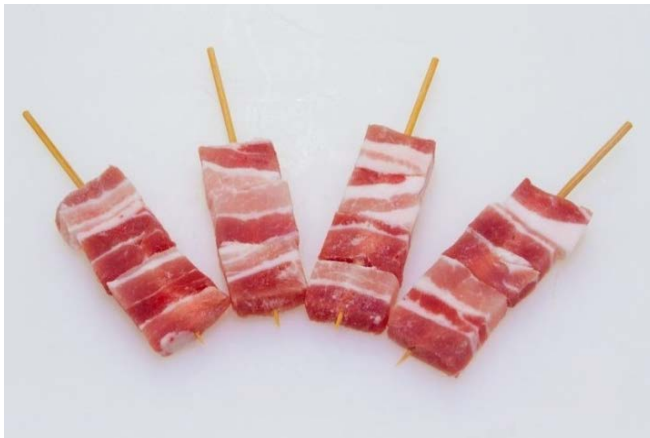


資料：GTA  
注：HSコード0203



# 国内加工による高付加価値化

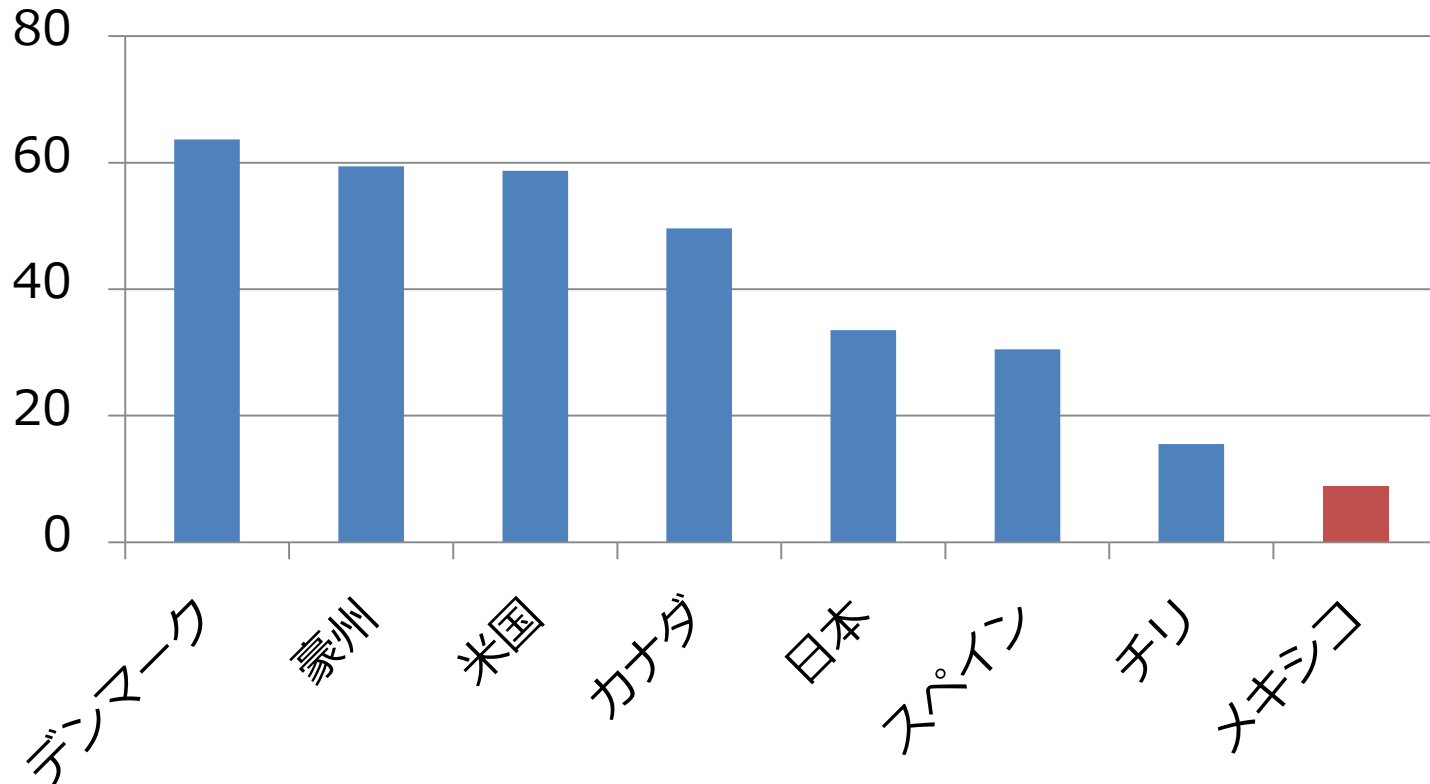
- ◆ 安価な人件費を生かして、人海戦術による国内加工
  - ◆ 市場のニーズに応じた細やかな食肉処理技術
- ⇒ ニーズに応じた国内加工による輸出競合国との差別化



# 人件費の比較

- ◆ 人件費は、他の主要豚肉輸出国と比較して低水準（1人当たり8,905米ドル/年）

(千米ドル/年)



資料：OECD  
注：2015年の値



# 通関地別日本向け輸出（2015年）

- ◆ 日本向け輸出の6割が、エンセナーダ港から積出し
- ◆ 豚肉の対日輸出は6州に限定されてきたが、2015年12月に全土が解禁

①エンセナーダ港

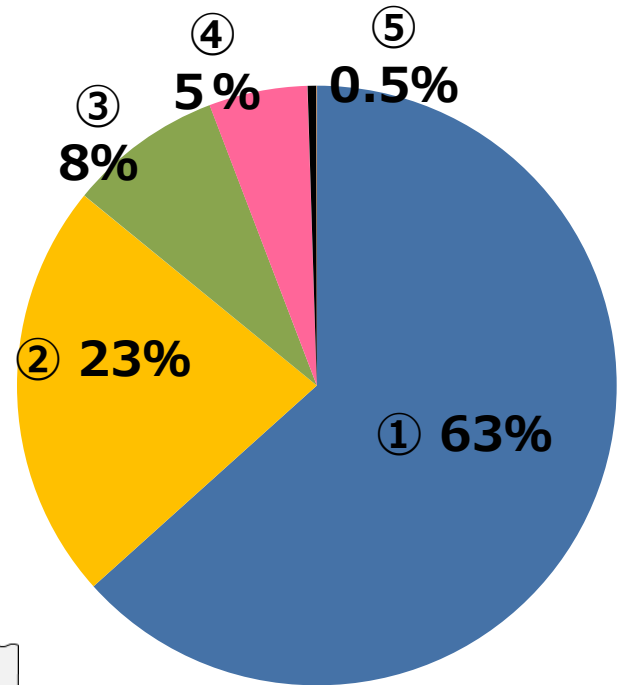


⑤ノガレス

②プログレス港

③マンサニヨ港

④ラサロカルデナス港



資料：SIAP

緑色の州は、全土解禁前から輸出が可能だった6州

# T I F 認証施設：処理能力

- ◆ 企業養豚が多いソノラ州では、ほとんどがTIF施設
- ◆ 主要生産州のハリスコ州では、TIF施設の割合が小さい
- ◆ 新たに対日輸出解禁となった州では、T I F 整備率が低い

	TIF以外	TIF	シェア	(頭/月)
ソノラ州	4,490	295,500	98.5%	
シナロア州	12,716	12,480	49.5%	
ユカタン州	52,190	48,000	47.9%	
ハリスコ州	139,040	42,600	23.5%	
チワワ州	5,643	900	13.8%	
バハ・カリフォルニア州	2,170	0	0.0%	
6州	216,249	399,480	64.9%	
6州以外	660,297	289,078	30.4%	
合計	876,546	688,558	44.0%	

資料：SIAP

- ◆ メキシカンポーク輸出業者協会会員：7社（2016年4月）
- ◆ 2016年5月に4社が加入



- 所在地：ソノラ州エルモシーヨ
- と畜加工場 2 カ所、加工場 1 カ所（いずれもTIF認証施設）
- 処理能力：2800頭/日
- 直営農場：80カ所程度
- 母豚：3万5000頭、年間出荷頭数：60万頭
- 自社工場で、小麦を中心に飼料配合

## 【2017年】

- と畜処理能力 ⇒ 3500頭/日
- 母豚頭数 ⇒ 4万5000頭



- 所在地：ソノラ州オブレゴン
- と畜加工場1カ所（TIF認証施設）
- 処理能力：1250頭/日（実処理800頭/日）
- 直営農場16カ所 → と畜頭数の9割は直営農場から
- 母豚：1万3000頭程度、オランダから原種豚を調達
- 自社工場で、小麦を中心にトウモロコシなどを配合
- 生産量の25%を輸出、ほぼすべてが日本向け



## 【今後】

- 工場の能力に見合うよう、母豚及び肥育豚を増頭
- 米国及び中国向けの輸出認証の取得

## □ 現状と優位性

---

- インテグレーションによる規模拡大
- 安価な人件費を生かした人海戦術による加工
- 市場ニーズに応じた細やかな食肉処理技術

## □ 課題

---

- 米国へのトウモロコシ依存
- 米国産豚肉との競合
- T I F 認証施設の増設

ご清聴ありがとうございました。

「畜産の情報」2016年7月号に掲載しております。

※ メールマガジンのご案内

独立行政法人農畜産業振興機構は、情報誌「畜産の情報」を毎月発行し、ホームページでも提供しているほか、メールマガジンにより、毎月2回（5日、25日）、最新の情報を配信しています。

メールマガジンの配信を希望される方は、機構ホームページ（<http://www.alic.go.jp>）右の「メールマガジン」ボタンからご登録ください。

